

新変額
個人年金保険
無配当

リズナブル

REASONABLE

新変額個人年金保険(無配当)<特別勘定グループ(TG型)>

月次運用実績レポート

2012年1月

特別勘定の名称	主な運用対象の投資信託	投資信託の運用会社
日本株インデックス型(TG)	インデックスファンド225	日興アセットマネジメント株式会社
日本株アクティブ型(TG)	フィデリティ・日本成長株・ファンド VA3(適格機関投資家専用)	フィデリティ投信株式会社
世界株式型(TG)	アムンディ・世界好配当株式VA (適格機関投資家専用)	アムンディ・ジャパン株式会社
新興成長国株式型(TG)	JPM・BRICS5・ファンド (適格機関投資家転売制限付)	JPモルガン・アセット・マネジメント 株式会社
中国株式型(TG)	HSBCチャイナ ファンドVAⅡ号 (適格機関投資家専用)	HSBC投信株式会社
世界債券型(TG)	グローバル・ソブリン・オープンVA (適格機関投資家専用)	国際投信投資顧問株式会社
海外リート型(TG)	ノムラ海外REIT インデックス・ ファンドVA(適格機関投資家専用)	野村アセットマネジメント株式会社
マネープール型(TG)	フィデリティ・マネー・プールVA (適格機関投資家専用)	フィデリティ投信株式会社

<引受保険会社>

<募集代理店>

株式会社 但馬銀行

 但馬銀行

 0120-164-230

たんぎん相談ダイヤル
受付時間 / 9:00~19:00
(土・日・祝日のほか、1月1日~3日、12月31日は除く)

アクサ生命保険株式会社 

redefining / standards

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3

TEL 0120-933-399

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

特別勘定名称

日本株インデックス型(TG)

運用方針

国内の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、日経平均株価に連動した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(04/09)を「100」として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
日本株インデックス型(TG)	3.87%	▲2.27%	▲10.04%	▲13.33%	10.15%	▲21.72%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	2.9%
投資信託	97.1%
合計	100.0%

【参考】日本株インデックス型(TG)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

インデックスファンド225 (運用会社:日興アセットマネジメント株式会社)

<基準価額の騰落率>

	1ヶ月	3ヶ月	6ヵ月	1年	3年
インデックスファンド225	4.08%	▲2.02%	▲9.81%	▲12.68%	14.56%
日経225	4.11%	▲2.07%	▲10.48%	▲14.02%	10.11%

基準価額の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

<国内株式組入上位5業種>

順位	業種	比率
1	電気機器	20.9%
2	小売業	9.8%
3	情報・通信業	8.6%
4	医薬品	6.9%
5	輸送用機器	6.7%

<国内株式組入上位10銘柄>(銘柄数 225銘柄)

順位	銘柄	業種	比率
1	ファーストリテイリング	小売業	6.87%
2	ファナック	電気機器	5.81%
3	京セラ	電気機器	2.95%
4	ソフトバンク	情報・通信業	2.89%
5	本田技研工業	輸送用機器	2.42%
6	キヤノン	電気機器	2.24%
7	KDDI	情報・通信業	2.19%
8	東京エレクトロン	電気機器	1.97%
9	信越化学工業	化学	1.80%
10	テルモ	精密機器	1.66%

<資産構成比率>

株式	100.0%
うち先物	1.7%
現金その他	1.7%

※「資産構成比率」「株式組入上位10銘柄」の比率は純資産総額を、「株式組入上位5業種」の比率は組入株式の評価額の合計を、それぞれ100%として計算したものです。

<運用コメント>

1月の国内株式市場は、日経平均株価が前月末比プラス4.11%となりました。当月は、予想を上回る米国の経済指標の発表から米国の景気回復期待が高まったことや好調な米国企業の決算発表などを受けて、全般的に買いが優勢でした。また、中国の2011年10-12月期国内総生産(GDP)伸び率が予想を上回ったこと、国際通貨基金(IMF)が融資能力を増強すると発表したことなども支援材料でした。ただ、2011年10-12月期の日本企業の厳しい決算数字が相つぎ発表されたことから、月末にかけて上げ幅を徐々に縮めました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

日本株アクティブ型(TG)

運用方針

国内の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、東証株価指数を中長期的に上回る投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点をも「100」として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
日本株アクティブ型(TG)	3.27%	▲2.72%	▲12.37%	▲16.21%	6.65%	▲29.07%

特別勘定資産内訳

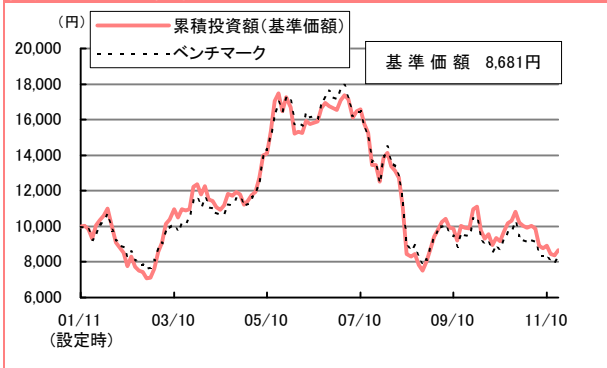
	構成比(%)
現預金・その他	3.9%
投資信託	96.1%
合計	100.0%

【参考】日本株アクティブ型(TG)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

フィデリティ・日本成長株・ファンドVA3(適格機関投資家専用) (運用会社:フィデリティ投信株式会社)

- ①主として日本株を投資対象とします。
- ②個別企業分析により、成長企業を選定し、利益成長性等と比較して妥当と思われる株価水準で投資を行います。

設定来の運用実績 (2012年1月31日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。ベンチマークはファンド設定日前日を10,000円として計算しています。
※基準価額は運用管理費用控除後のものです。

<運用コメント>

1月の東京株式市場は、月半ば以降、堅調に推移しました。年初に発表された海外の主要マクロ経済指標が市場予想を上回ったことから、日本株も上昇してまいりました。しかし、イタリア大手銀行の増資発表などを受けて欧州債務危機に対する懸念が再燃すると株価は反落、一段のユーロ安円高進行も重石となり弱含みの展開となりました。月半ば、イタリアやフランスの国債入札が順調な結果となり債務危機に対する過度の懸念が和らぐと、日本株は漸く反発しました。米格付け会社によるユーロ圏9カ国の国債格下げ発表が嫌気されたものの、中国の更なる金融緩和への期待などを背景に日本株はすぐさま切り返し、米住宅関連指標の改善や円安進行を好感して続伸しました。月末近く、FRB(米連邦準備制度理事会)が超低金利政策の延長を表明すると円安進行が一服、米10-12月期実質国内総生産が予想を下回ったことも売り材料視され、日本株はやや下げて月を終えました。月間の騰落率は、TOPIX(配当金込)が+3.66%、日経平均株価は+4.11%となりました。

※上記コメントは、資料作成時点におけるもので将来の市場環境等の変動等を保証するものではありません。

ポートフォリオの状況(マザーファンド・ベース)

<資産別組入状況>

株式	96.1%
新株予約権証券(ワラント)	-
投資信託・投資証券	0.2%
現金・その他※	3.7%

※「フィデリティ・円キャッシュ・ファンド(適格機関投資家専用)」3.6%を含みます。

未払金等の発生により、「現金・その他」の数値が「フィデリティ・円キャッシュ・ファンド(適格機関投資家専用)」の数値を下回ることがあります。

<市場別組入状況>

東証1部	88.7%
東証2部	0.0%
ジャスダック	1.4%
その他市場	6.2%

<組入上位5業種>

電気機器	16.9%
輸送用機器	10.2%
卸売業	7.9%
機械	7.4%
銀行業	6.9%

(対純資産総額比率)

*各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

商品概要	
形態	追加型投信/国内/株式
投資対象	わが国の株式等
設定日	2001年11月29日
信託期間	原則無期限
決算日	原則、毎年11月30日(休業日のときは翌営業日)

累積リターン (2012年1月31日現在)						
	直近1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	3.51%	▲2.59%	▲12.32%	▲15.82%	10.54%	▲13.19%
ベンチマーク	3.66%	▲1.04%	▲9.20%	▲15.03%	1.16%	▲16.79%

※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。
※ベンチマーク:TOPIX(配当金込)

過去5期分の収益分配金(1万円当たり/税込)	
第6期(2007.11.30)	0円
第7期(2008.12.01)	0円
第8期(2009.11.30)	0円
第9期(2010.11.30)	0円
第10期(2011.11.30)	0円

純資産総額 607.8 億円 (2012年1月31日現在)

組入上位10銘柄(マザーファンド・ベース) (2011年12月30日現在)

順位	銘柄	業種	比率
1	本田技研工業	輸送用機器	3.7%
2	ミスミグループ本社	卸売業	3.3%
3	トヨタ自動車	輸送用機器	3.0%
4	オリックス	その他金融業	2.8%
5	三菱電機	電気機器	2.7%
6	ダイキン工業	機械	2.5%
7	三井住友トラスト・ホールディングス	銀行業	2.4%
8	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.1%
9	大和工業	鉄鋼	2.1%
10	三井物産	卸売業	2.1%

(組入銘柄数: 200) 上位10銘柄合計 26.8% (対純資産総額比率)

※「フィデリティ・円キャッシュ・ファンド(適格機関投資家専用)」は、組入上位10銘柄の対象から除いています。

特別勘定名称

世界株式型(TG)

運用方針

日本を含む世界各国の高い配当利回りが期待できる企業の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的な成長を目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(06/09)を「100」として指数化したものです。
 ※世界株式型(TG)は2006年9月1日からの推移を示しております。

ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
世界株式型(TG)	▲0.09%	▲5.13%	▲6.67%	▲6.64%	22.99%	▲31.19%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	2.2%
投資信託	97.8%
合計	100.0%

【参考】世界株式型(TG)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

アムンディ・世界好配当株式VA(適格機関投資家専用)

(運用会社:アムンディ・ジャパン株式会社)

<基準価額の騰落率>(課税前分配金再投資換算基準価額)

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
アムンディ・世界好配当株式VA	0.00%	▲ 5.03%	▲ 6.18%	▲ 5.46%	28.57%	▲ 26.20%
MSCI コクサイインデックス(円換算ベース)	3.36%	▲ 2.16%	▲ 5.78%	▲ 8.10%	38.73%	▲ 29.24%
差異	▲ 3.36%	▲ 2.87%	▲ 0.40%	2.65%	▲ 10.16%	3.04%

※騰落率は、年率換算していません。騰落率は月次の収益率より算出しています。
 ※基準価額は信託報酬控除後のものです。
 ※「課税前分配金再投資換算基準価額」は、この投資信託の公表している基準価額に、各収益分配金をその分配を行う日に全額再投資したと仮定して算出したものであり、当社が公表している基準価額とは異なることがあります。
 ※MSCIコクサイインデックスは前日の指数値(米ドルベース・クロス配当再投資)を委託者が当日の三菱東京UFJ銀行の対顧客電信売買相場仲値を用いて円換算したものを使用しております。

<株式組入上位10銘柄>

(組入銘柄数: 92)

銘柄	ウェイト	配当利回り	業種	国
1 オーストラリア&ニュージーランド銀行	3.1%	7.6%	金融	オーストラリア
2 ウェストバンク銀行	2.6%	6.7%	金融	オーストラリア
3 パワー・アセツ・ホールディングス	2.4%	3.8%	公益	香港
4 CLPホールディングス	2.4%	3.9%	公益	香港
5 ファイザー製薬	2.2%	3.1%	ヘルスケア	米国
6 サノフィ	2.1%	4.6%	ヘルスケア	フランス
7 ユニリーバ	2.1%	3.6%	生活必需品	オランダ
8 グラクソ・スミスクライン	2.0%	5.1%	ヘルスケア	英国
9 スタイル	2.0%	4.4%	その他	ノルウェー
10 メルク	1.8%	4.4%	ヘルスケア	米国

※ウェイトは、マザーファンドの純資産総額に対する割合を表示しています。また、業種分類は、当社が独自に定めた分類方法で表示しております。※配当利回りは、ブルームバーグのデータに基づきアムンディ・ジャパン株式会社が各銘柄の当会計年度の予想DPSを基準日の株価で割って算出しております。

<純資産構成比率>

株式合計	99.3%
現金+現先+その他	0.7%
合計	100%

※比率はマザーファンドの内容です。

<組入地域配分比率>

地域	ウェイト
北米	24.5%
ユーロ圏	23.5%
その他欧州	25.9%
アジア・オセアニア	25.4%

※ウェイトはマザーファンドの対純資産総額比率です。

<組入業種配分比率>

業種	ウェイト
公益	28.9%
生活必需品	19.0%
ヘルスケア	16.0%
金融	17.2%
電気通信サービス	9.6%
その他	8.6%

※ウェイトはマザーファンドの対純資産総額比率です。

<株式組入上位5業種>

業種	ウェイト
1 公益事業	28.9%
2 食品・飲料・タバコ	14.7%
3 医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	14.6%
4 銀行	13.2%
5 電気通信サービス	9.6%

※ウェイトはマザーファンドの対純資産総額比率です。

<運用コメント>

<投資環境と運用状況>

製造業や雇用関連指標の緩やかな改善傾向が続いているアメリカでは、10-12月期の実質GDP成長率が前期比年率2.8%まで回復しました。しかし、FRB(米連邦準備理事会)は慎重な姿勢を崩さず、非常に緩和的な金融政策を少なくとも2014年後半まで継続することを発表しました。これを受けて米ドルは月末にかけて対円で2%近く売られました。欧州ではギリシャ支援策が引き続き注目される中、フランスなどユーロ加盟国の多くも格下げされ、加盟国の財政支援を担う欧州金融安定基金もスタンダード&プアーズによる最上位の格付を失いました。しかし、財政健全化への取組みが加速することを見込んで、スペインやイタリアの国債入札は無難に消化、月末の欧州連合首脳会議では、ほぼすべての加盟国が財政規律強化で合意しました。ユーロは対円で月間3%以上下落する場面もありましたが、下旬にかけて月初の水準まで戻しました。世界株式は12月半ばからの反発傾向を持続し、約半年ぶりの水準を回復しました。ユーロ圏株式は6%近い反発、北米とアジア・オセアニアは5%前後、その他欧州は2%の上昇でした。業種別では、素材が10%を越す上昇、金融、資本財、一般消費財、情報技術などは7%前後の上昇、ヘルスケアとエネルギーも2%上昇しましたが、公益、通信、生活必需品は2%前後下落しました。

<今後の運用方針>

先進国の運用方針は引き続き緩慢で、ユーロ圏では、一時的にマイナス成長に陥ると見られます。最近の比較的良好なアメリカの景気指標も、季節調整が適切に行われていないことが原因である可能性があり、注意が必要です。しかし、主要中央銀行が金融緩和で協調し、世界同時不況の懸念は後退しました。株価は極端なリスクが織り込まれた水準から急反発した後は、緩やかな成長を織り込む展開となりそうです。12月以降の株価急反発局面では値動きの鈍かった当ファンドの組入銘柄も、低金利が長期化する環境下で、高水準の配当を持続していることが再び評価されると見込んでいます。もともと、十分な収益力を維持している業界や企業においても、税収確保を図るための政策変更が追加的な重荷となる可能性があり、銘柄選別において留意する必要があります。

当ファンドは、予想配当利回りが高く、また、循環的要因によらない質の高い利益成長を持続できる銘柄を中心としたポートフォリオ運用によって、安定的な収益源を確保します。業種配分においては、高水準かつ比較的安定した配当支払いが見込める公益、ヘルスケア、生活必需品、金融といった業種中心のポートフォリオを維持し、地域別には4地域への均等配分を為替変動リスクを分散します。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

新興成長国株式型(TG)

運用方針

新興成長国の企業の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的な成長を目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(2006年9月1日)を「100」として指数化したものです。
 ※新興成長国株式型(TG)は2006年9月1日からの推移を示しております。

ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
新興成長国株式型(TG)	8.81%	▲0.14%	▲10.03%	▲12.62%	86.28%	8.77%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	1.7%
投資信託	98.3%
合計	100.0%

【参考】 新興成長国株式型(TG)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

JPM・BRICS5・ファンド(適格機関投資家転売制限付) (運用会社:JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社)

<基準価額の騰落率>

	1ヶ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
JPM・BRICS5・ファンド	9.1%	0.1%	▲10.0%	▲12.1%	97.8%	33.3%

※騰落率については、基準価額に税引前分配金を再投資して計算しております。
 ※騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。
 ※ファンド設定日は2006年5月26日です。

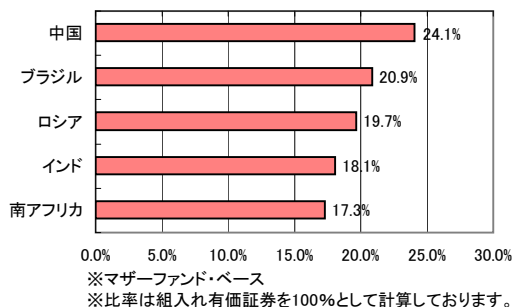
<株式組入上位10銘柄>

(銘柄数 52銘柄)

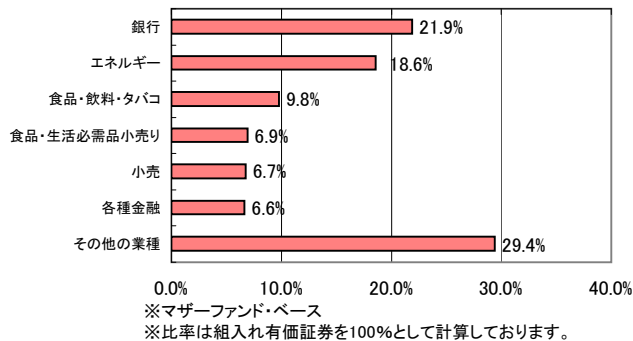
順位	銘柄	国	業種	比率
1	HDFC	インド	銀行	4.17%
2	利豊	中国	小売	4.13%
3	ルクオイル(ADR)	ロシア	エネルギー	4.00%
4	コンパニア・デ・ベビダス・ダス・アメリカス(ADR)	ブラジル	食品・飲料・タバコ	3.26%
5	イタウ・ウニバンコ・ホールディング(ADR)	ブラジル	銀行	3.22%
6	タイガーブランド	南アフリカ	食品・飲料・タバコ	3.17%
7	ショップライト・ホールディングス	南アフリカ	食品・生活必需品小売り	3.06%
8	ブラジル・フーズ(BRF)	ブラジル	食品・飲料・タバコ	2.63%
9	中国建設銀行	中国	銀行	2.58%
10	中国石油天然気	中国	エネルギー	2.56%

※マザーファンド・ベース
 ※比率は対純資産で計算しています。
 ※2011年12月30日現在

<国別構成比率>



<業種別構成比率>



<運用コメント>

市場概況

当月の新興国株式市場は上昇しました。欧州債務問題が落ち着きを見せ始め、米国では市場予想を上回る経済指標が相次いで発表されたことなどが好感され、新興国市場は全般的に上昇基調となりました。国別では、BRICS5カ国ともに上昇しました。

運用状況

- ・当ファンドの月末基準価額は11,567円、前月比+9.1%となりました。
- ・当月は株価要因、為替要因ともにプラスとなりました。
- ・組入る有価証券に対する国別の投資比率は、中国、ブラジルが20%を上回る比率となりました。一方で南アフリカ、インド、ロシアは20%を下回る比率となりました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載しておりますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

中国株式型(TG)

運用方針

中国の証券取引所に上場されている企業の株式や中国経済の発展と成長に係わる企業の株式等を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的な成長を目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点を「100」として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
中国株式型(TG)	7.11%	▲1.01%	▲16.44%	▲19.33%	23.19%	32.02%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.1%
投資信託	95.9%
合計	100.0%

【参考】中国株式型(TG)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

HSBCチャイナファンドVAⅡ号(適格機関投資家専用)

(運用会社:HSBC投信株式会社)

HSBCチャイナファンドVAⅡ基準価額の推移(設定来)

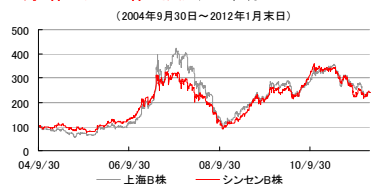


※基準価格は信託報酬控除後のものです。

H株とレッドチップの推移(2004年10月4日を100として指数化)

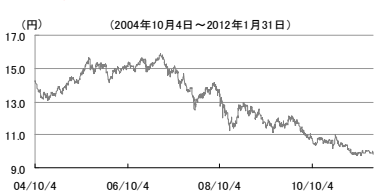


上海B株と深センB株の推移(2004年9月30日を100として指数化)



※設定日の2004年10月4日は中国本土市場では中国国慶節の休場日であったことから前営業日の2004年9月30日を100として指数化しています。

為替の推移(香港ドル/円)

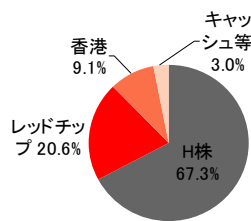


出所:為替レートは投資信託協会、株価指数はブルームバーグ

業種別組入れ比率

業種名称	比率
銀行	28.8%
エネルギー	22.1%
電気通信サービス	10.8%
保険	7.7%
素材	5.2%
自動車・自動車部品	5.1%
不動産	4.6%
資本財	4.3%
運輸	2.1%
ソフトウェア・サービス	1.3%
家庭用品・パーソナル用品	1.2%
食品・飲料・タバコ	1.2%
消費者サービス	0.9%
小売	0.8%
耐久消費財・アパレル	0.6%
その他	0.4%
キャッシュ等	3.0%
合計	100.0%

市場別組入れ比率



※親信託財産の構成(対純資産総額)

<運用コメント>

■1月の中国株式市場

今月の中国株式市場は、政府による株式市場の信頼回復へ向けた梃子入れ策の表明、欧州債務問題が小康状態にあること、米国の経済指標の改善傾向を背景とした投資センチメントの改善により力強く上昇し、香港市場のH株指数は前月比+12.1%、レッドチップ指数は同+5.2%となりました(作成基準日の前営業日現在、現地終値ベース)。参考指標のMSCIチャイナフリーインデックスは同+7.6%(円ベース)でした。

当月発表された10-12月期および12月の主要経済指標の内容は以下の通りです。

2011年10-12月期の実質GDP成長率は前年同期比+8.9%と市場予想(同+8.7%)を若干上回りましたが、過去10四半期で最も低水準となりました。12月の指標は、消費者物価指数(CPI)の上昇率が前年同月比+4.1%と前月の同+4.2%を若干下回ったものの、市場予想(同+4.0%)を上回りました。春節(旧正月)連休(22~28日)を前に指数の3割を占める食料品価格は同+9.1%と前月の同+8.8%から伸び率が拡大しました。また、人民元建新規貸出額は11月の5,620億元から6,400億元に、通貨供給量(M2)も11月の前年同月比+12.7%から同+13.6%に拡大しました。

輸出は11月の前年同月比+13.8%から12月は同+13.4%に、輸入も同+22.1%から同+11.8%へ各々伸び率が鈍化し、貿易黒字は11月の145億米ドルから165億米ドルに拡大し、通年では1,551億米ドルとなりました。

■今後の見通し

当ファンドの基準価額は、香港ドルの対円相場が10.00円から9.85円と1.5%の香港ドル安円高方向に振れたものの、前月比+7.5%(基準日ベース)と上昇しました。

セクター別では、参考指標との対比で金融をオーバーウェイトとし、生活必需品、公益をアンダーウェイトとしていたことがプラス寄りました。銘柄別では、中国工商银行、中国石油化工、中国平安保険、中国交通建設、中国鉄建、中国農業銀行をオーバーウェイトとしていたこと、また中国聯通、中興通訊、北京控股をアンダーウェイトとしていたことなどがプラス寄りました。

1月の製造業購買担当者指数(PMI)および12月の金融政策の転換は、当社が従来から想定してきた中国経済のソフトランディングシナリオを再確認するものとなりました。

一方、12月の通貨供給量(M1、M2)の伸びおよび新規貸出額が揃って11月を上回ったことは、金融緩和策が緩やかに浸透していることを窺わせました。また、欧州債務問題に関しては欧州中央銀行(ECB)による長期リファイナンスオペ(欧州中銀による資金供給オペ、期間3年)プログラムの導入、および直近の米経済指標の改善傾向により、金融システム・リスクの低減がもたらされ、中国の輸出減少によるダウンサイド・リスクはある程度緩和されました。

銀行預金の伸びの鈍化、資本流出、不動産投資の減速、企業利益の減少などの問題は未だ解決されておらず、株式市場が2012年第1四半期中に調整局面を迎えることは有り得ると見ています。しかし、そうなった場合、政策当局は景気の下支えへ向けて一段の緩和策を採ることが予想されます。それにより、市場は反転すると見られ、現在は買いの好機と捉えています。

※将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更される場合があります。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

世界債券型(TG)

運用方針

日本を含む世界各国の公社債を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、シティグループ世界国債インデックス(含む日本/円ベース)を中長期的に上回る投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(04/09)を「100」として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
世界債券型(TG)	0.22%	▲2.04%	▲2.12%	▲2.26%	▲1.47%	▲9.08%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	2.5%
投資信託	97.5%
合計	100.0%

【参考】世界債券型(TG)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

グローバル・ソブリン・オープンVA(適格機関投資家専用)

(運用会社:国際投信投資顧問株式会社)

<基準価額の騰落率> (課税前分配金再投資換算基準価額)

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
グローバル・ソブリン・オープンVA	0.3%	▲1.8%	▲1.5%	▲1.1%	2.1%	11.8%
シティグループ世界国債インデックス	0.2%	0.3%	0.1%	0.4%	2.3%	17.7%
差異	0.2%	▲2.1%	▲1.7%	▲1.5%	▲0.2%	▲6.0%

<純資産構成比率>

債券合計	99.1%
現金+現先+その他	0.9%
合計	100.0%

※騰落率は、年率換算していません。騰落率は月次の収益率より算出しています。
 ※基準価額は信託報酬控除後のものです。
 ※「課税前分配金再投資換算基準価額」は、この投資信託の公表している基準価額に、各収益分配金(課税前)をその分配を行う日に全額再投資したと仮定して算出したものであり、当社が公表している基準価額とは異なります。
 ※ベンチマークは基準価額との関連を考慮して、前営業日の値を用いています。
 ※シティグループ世界国債インデックスは、シティグループ・グローバル・マーケット・インクの開発したものです。

<債券組入上位10銘柄>

銘柄	ウェイト	通貨	残存年数
(1) アメリカ国債	3.3%	USドル	9.8
(2) ノルウェー国債	3.3%	ノルウェー・クローネ	3.3
(3) カナダ国債	3.1%	カナダドル	17.3
(4) ドイツ国債	2.8%	ユーロ	18.9
(5) カナダ国債	2.8%	カナダドル	21.3
(6) スウェーデン国債	2.5%	スウェーデン・クローナ	8.8
(7) 欧州投資銀行	2.2%	豪ドル	7.5
(8) オーストラリア国債	2.1%	豪ドル	9.3
(9) アメリカ国債	2.1%	USドル	8.5
(10) アメリカ国債	2.0%	USドル	5.0

<組入通貨配分比率>

通貨	ウェイト
USドル	22.8%
ユーロ	10.6%
英ポンド	4.0%
日本円	17.5%
その他	45.1%

※ウェイトはマザーファンドの純資産総額比率です。

<運用コメント>

<投資環境と運用状況>

1月の債券市場では、米連邦公開市場委員会(FOMC)が低金利政策を市場予想よりも長期間維持することを示唆したことなどを背景に、米国債の利回りは低下しました。為替市場では、昨年12月に実施された欧州中銀(ECB)の3年物資金供給オペなどの緩和的な金融政策の導入などを背景に、欧州金融機関やユーロ圏周辺国の国債入札に対する懸念が後退したことなどから、先進国で相対的に高金利である豪ドルが他の主要国通貨に対して上昇しました。当ファンドは、デレージョンについてはベンチマークに対してやや長めとしました。国別配分については、日本をベンチマーク対比でアンダーウェイトとし、オーストラリア、カナダ、ノルウェーおよびスウェーデンをオーバーウェイトとしました。

<今後の運用方針>

為替市場では、財政が相対的に健全で、ファンダメンタルズが良好なスウェーデンやオーストラリアの通貨が、主要国通貨に対して上昇するとみられています。デレージョンは、カナダやオーストラリアなど相対的に財政の健全度が高い国や、流動性の高い米国などのデレージョンについては長めを維持する方針です。国別配分については、日本をベンチマーク対比でアンダーウェイトとし、オーストラリア、カナダ、ノルウェーおよびスウェーデンをオーバーウェイトとする予定です。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

海外リート型(TG)

運用方針

日本を除く世界各国の上場不動産投信(REIT=Real Estate Investment Trust)を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、S&P先進国REIT指数(除く日本、配当込み、円換算ベース)に連動した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点を「100」として指数化したものです。
 ※海外リート型(TG)は2006年9月1日からの推移を示しております。

ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
海外リート型(TG)	4.10%	0.73%	▲4.62%	▲1.13%	63.38%	▲40.28%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	3.1%
投資信託	96.9%
合計	100.0%

【参考】 海外リート型(TG)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

ノムラ海外REITインデックス・ファンドVA(適格機関投資家専用)

(運用会社:野村アセットマネジメント株式会社)

<基準価額の騰落率>

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
ノムラ海外REITインデックスファンドVA	4.3%	1.0%	▲3.9%	0.4%	▲36.4%
ベンチマーク	4.4%	1.1%	▲3.8%	0.7%	▲33.7%

「S&P先進国REIT指数(除く日本)」はスタンダード&プアーズファイナンシャル サービスズ エル エル シーの所有する登録商標であり、野村アセットマネジメントに対して利用許諾が与えられています。スタンダード&プアーズは本商品を推奨・支持・販売・促進等するものではなく、また本商品に対する投資適格性等に関しかなる意思表示等を行なうものではありません。

※収益率の各計算期間は、作成基準日から過去に遡った期間としております。

※ベンチマークである、S&P先進国REIT指数(除く日本、配当込み、円換算ベース)はS&P先進国REIT指数(除く日本、配当込み、ドルベース)を委託会社において円換算したものです。

<資産配分比率>

資産種別	純資産比
REIT(リート)	97.1%
その他の資産	2.9%
合計(※)	100.0%

※先物の建て玉のある場合は、合計欄を表示していません。
 ※純資産比は、マザーファンドの純資産比と当ファンドが保有するマザーファンド比率から算出しております。

<実質通貨別配分>

通貨	純資産比
日本・円	2.4%
外貨計	97.6%
アメリカ・ドル	64.5%
ユーロ	7.4%
イギリス・ポンド	5.5%
その他の外貨	20.2%

・実質通貨配分は為替予約等を含めた実質的な比率をいいます。

<国・地域別配分>

国・地域	純資産比
アメリカ	66.2%
オーストラリア	12.0%
イギリス	5.6%
フランス	5.1%
シンガポール	3.3%
その他の国・地域	7.8%
合計	100.0%

<組入上位10銘柄>

	銘柄	国・地域	純資産比
1	SIMON PROPERTY GROUP INC	アメリカ	6.5%
2	PUBLIC STORAGE	アメリカ	3.2%
3	WESTFIELD GROUP	オーストラリア	3.2%
4	UNIBAIL RODAMCO SE	フランス	2.9%
5	EQUITY RESIDENTIAL	アメリカ	2.9%
6	HCP INC	アメリカ	2.8%
7	VENTAS INC	アメリカ	2.7%
8	BOSTON PROPERTIES	アメリカ	2.5%
9	VORNADO REALTY TRUST	アメリカ	2.4%
10	PROLOGIS INC	アメリカ	2.4%

※純資産比は、マザーファンドの純資産比と当ファンドが保有するマザーファンド比率から算出しております。

※国・地域は原則発行国・地域で区分しております。

<市場コメント>

●米連邦準備制度理事会(FRB)が低金利政策長期化の可能性を示唆したことを受けて、世界的に景気回復期待が高まったことなどを背景として、外国リート市場は上昇しました。FRBが低金利政策長期化の可能性を示唆したことを受けて内外金利差の縮小観測が強まったことや、ギリシャ債務減免交渉の長期化などを背景に、主要通貨は対円で下落(円高)しました。

(野村アセットマネジメント作成)

<純資産総額>

純資産総額 15.4 億円

<組入銘柄数>

組入銘柄数 237 銘柄

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載しておりますので必ずご参照ください。

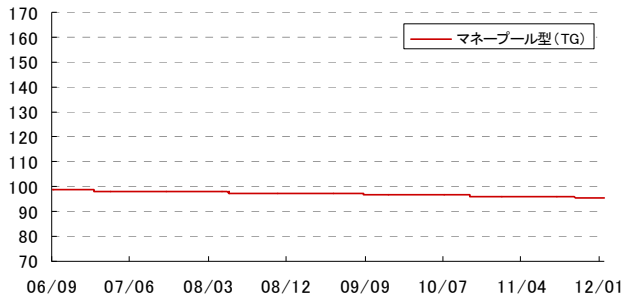
特別勘定名称

マネープール型(TG)

運用方針

他の特別勘定で運用している資金の一時退避を目的とし、国内の公社債および短期金融商品等を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、安定した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(100)として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
マネープール型(TG)	▲0.06%	▲0.16%	▲0.34%	▲0.67%	▲1.92%	▲4.52%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	12.7%
投資信託	87.3%
合計	100.0%

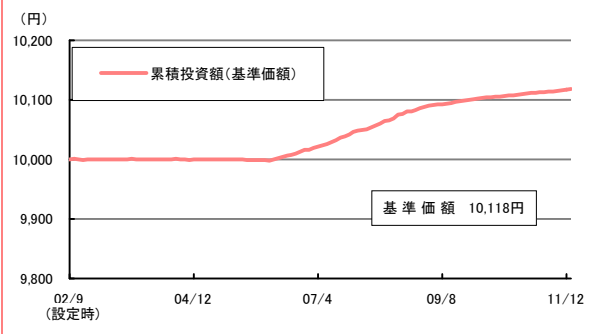
【参考】マネープール型(TG)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

フィデリティ・マネー・プールVA(適格機関投資家専用)

(運用会社:フィデリティ投信株式会社)

◆本邦通貨表示の公社債等を
主要な投資対象とし、安定した収益の確保を
図ることを目的として運用を行います。

設定来の運用実績 (2012年1月31日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの
収益分配金を再投資した実績評価額です。
ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。
※当ファンドは、ベンチマークを設定していません。
※基準価額は運用管理費用控除後のものです。

商品概要	
形態	追加型投信/国内/債券
投資対象	本邦通貨表示の公社債等
設定日	2002年9月20日
信託期間	原則無期限
決算日	原則、毎年11月30日(休業日のときは翌営業日)

累積リターン (2012年1月31日現在)						
ファンド	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	0.01%	0.03%	0.05%	0.09%	0.37%	1.18%

※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された
収益率です。

過去5期分の収益分配金 (1万口当たり/税込)	
第6期(2007.11.30)	0円
第7期(2008.12.01)	0円
第8期(2009.11.30)	0円
第9期(2010.11.30)	0円
第10期(2011.11.30)	0円

純資産総額 118.2億円 (2012年1月31日現在)

ポートフォリオの状況(マザーファンド・ベース) (2011年12月30日現在)

<資産別組入状況>

債券	93.2%
C P	-
C D	-
現金・その他	6.8%

<組入資産格付内訳>

AAA/Aaa	-
AA/Aa	93.2%
A	-
現金・その他	6.8%

平均残存日数	51.18日
平均残存年数	0.14年

格付は、S&P社もしくはムーディーズ社による格付を採用し、S&P社の格付を優先して採用しています。「プラス/マイナス」の符号は省略しています。なお、両社による格付のない場合は、「格付なし」に分類しています。

組入上位10銘柄(マザーファンド・ベース) (2011年12月30日現在)

	銘柄	種類	格付	比率
1	第233回 国庫短期証券 2012/02/06	債券	AA/Aa	13.3%
2	第232回 国庫短期証券 2012/01/30	債券	AA/Aa	10.0%
3	第236回 国庫短期証券 2012/02/20	債券	AA/Aa	10.0%
4	第238回 国庫短期証券 2012/02/27	債券	AA/Aa	10.0%
5	第241回 国庫短期証券 2012/03/12	債券	AA/Aa	10.0%
6	第226回 国庫短期証券 2012/01/12	債券	AA/Aa	6.7%
7	第228回 国庫短期証券 2012/01/16	債券	AA/Aa	6.7%
8	第234回 国庫短期証券 2012/02/13	債券	AA/Aa	6.7%
9	第240回 国庫短期証券 2012/03/05	債券	AA/Aa	6.7%
10	第245回 国庫短期証券 2012/03/26	債券	AA/Aa	6.7%

(組入銘柄数: 11) 上位10銘柄合計 86.5% (対純資産総額比率)

*各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

ご注意いただきたい事項

▲ 投資リスクについて

この保険の据置（運用）期間中の運用は特別勘定で行なわれます。特別勘定資産の運用実績に基づいて年金額、死亡給付金額および解約払戻金額等が変動（増減）します。特別勘定資産の運用は、株式および公社債等の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあり、運用実績によってはお受け取りになる年金額や解約払戻金額の合計額が一時払保険料を下回ることがあります。これらのリスクはすべてご契約者に帰属します。

▲ 元本欠損が生じる場合があります

解約の時期、被保険者の契約年齢等の諸条件により、ご契約者等が受け取る金額の合計額が、お払込保険料の合計額を下回る場合もあります。保険会社の業務または財産の状況の変化により、年金額、死亡給付金額、解約払戻金額等が削減されることがあります。

▲ 諸費用について

契約初期費	一時払保険料に対して 5.0% を特別勘定繰入前に控除します。
保険関係費	特別勘定の資産総額に対して (年率0.75%+運用実績に応じた費用(※))/365日 を毎日控除します。 ※ 運用実績に応じた費用:運用実績を毎日判定し、運用実績が 年率1.5%を超過 した場合のみ、 超過分1%あたり0.1%(上限1.25%) を控除します。
移転費	積立金の移転が年間13回以上のとき、 移転一回につき1,000円 を、保険会社が移転を受け付けた日末に積立金から控除します。
年金管理費	年金支払開始日以後、支払年金額の 1% を年金支払日に控除します。
資産運用関係費	日本株インデックス型(TG) 年率0.546%程度
	日本株アクティブ型(TG) 年率0.924%程度
	世界株式型(TG) 年率0.8085%程度
	新興成長国株式型(TG) 年率1.155%程度
	中国株式型(TG) 年率1.176%程度
	世界債券型(TG) 年率0.8925%程度
	海外リート型(TG) 年率0.42%程度
マネープール型(TG) 年率0.008925%~0.525%程度	

資産運用関係費は将来変更されることがあります。

その他お客さまにご負担いただく手数料には、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金がかかりますが、費用の発生前に金額や割合を確定することが困難なため表示することができません。また、これらの費用は各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの費用を間接的に負担することとなります。

その他ご注意いただきたい事項

- 当資料は、特別勘定の主な投資対象である投資信託の勧誘を目的としたものではありません。
- 新変額個人年金保険「リズナブル」は、生命保険商品であり投資信託ではありません。また、ご契約者様が直接投資信託を保有されている訳ではありません。
- 新変額個人年金には複数の特別勘定グループが設定されており、「リズナブル」には「特別勘定グループ(TG型)」が設定されています。保険料繰り入れおよび積立金の移転は「特別勘定グループ(TG型)」に属する特別勘定に限定されます。「特別勘定グループ(TG型)」以外の特別勘定グループに属する特別勘定への保険料の繰り入れおよび積立金の移転はできません。
- 特別勘定および特別勘定の主な運用対象となる投資信託の内容が変更されることがあります。
- 特別勘定資産の運用実績は、特別勘定が主な投資対象とする投資信託の運用実績とは異なり、一致するものではありません。これは、特別勘定は投資信託のほかに、保険契約の異動等に備えて一定の現預金等を保有していることや、積立金の計算にあたり投資信託の値動きには反映されていない保険にかかる費用等を特別勘定資産から控除していることなどによるものです。
- ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の参考値で、各特別勘定の運用開始時の値を「100」として指数化したものです。

新変額個人年金保険(無配当)「リズナブル」は現在販売していません。